バリアフリーレポート

（平成２９年度報告）

写真：安栄観光　新造船「ぱいじま２」

内閣府沖縄総合事務局運輸部

１．沖縄総合事務局運輸部企画室の年間活動報告

（１）平成２９年度「バリアフリー教室」の開催

運輸部では、開発建設部と連携し、高齢者、視覚障がい者、身体障がい者等の疑似体験や介助体験等を通じてバリアフリーについての理解を深めてもらうとともに、ボランティアに関する意識を醸成し、誰もが高齢者、視覚障がい者、身体障がい者等に対し「お手伝いしましょう」とごく自然に声をかけてサポートできる「心のバリアフリー」を目指しています。

①こども見学デー（沖縄総合事務局主催）

・ノンステップバスを利用した体験教室を開催

日時：平成２９年８月２日（水）１０：００～１５：００
場所：内閣府沖縄総合事務局
対象：来局した小学校生など（子どものみ８３名）
内容：アイマスク体験、高齢者疑似体験、車いす体験及び介助体験

【高齢者擬似体験】

【車いす体験】

【　アイマスク体験　】

【　体験申込みの様子　】

②バリアフリー教室in宮古島市

・宮古島市においてバリアフリー教室を開催

日時：平成２９年１１月２１日（火）１３：３０～１６：１０

場所：沖縄県宮古合同庁舎２F会議室

対象：バリアフリー推進協議会メンバー（主に商店街関係者）、ホテル等の観光施設関係者及び学生（約３０名）

内容：「誰もが安心して利用できる商店街に向けて」をテーマにした講演及び参加者によるワークショップ

参加者の感想：「障がいにも色々な度合いがあり、それぞれの状態の方々に対する理解が必要だと思った。」「ワークショップを行うことで、より深く理解することができた。」「観光が今後拡大していくので、町づくりという視点から考えていきたい。」等

【講演風景】

【ワークショップ】

（２）平成２９年度「バリアフリープロモーター活動」（自治体への作成支援）の実施

現在、「どこでも、だれでも、自由に、使いやすく」というユニバーサルデザインの考え方を踏まえた「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律」（以下、「バリアフリー法」という。平成１８年１２月２０日施行）に基づき、高齢者や障がい者等の方々が社会参加をするために重要な公共交通機関や建築物等についての移動円滑化施策が全国各地で進められているところです。

運輸部では、開発建設部と連携し、市町村によるバリアフリー法に基づく基本構想策定の取組を促進することを目的として、基本構想策定のノウハウを必要としている市町村に対して、専門家等からなるバリアフリープロモーターを派遣し、バリアフリー法の解説、基本構想策定までの流れ、策定メリットの紹介、補助制度の説明、他の市町村の事例紹介を実施しています。

●日　時　平成２９年５月２４日（火）　１３：００
場　所　宮古島市役所
相手方　宮古島市役所都市計画課職員　計２名
当　局　運輸部２名
内　容　バリアフリー基本構想についてフォローアップを実施

●日　時　平成２９年１２月７日（木）１４：００～１５：００
場　所　南城市役所
相手方　南城市役所企画室職員他　計６名
当　局　運輸部３名
内　容　バリアフリー法と基本構想について資料に沿って説明後、意見交換

●日　時　平成３０年１月５日（金）１０：００～１１：００
場　所　石垣市役所
相手方　石垣市役所商工振興課職員　計３名
当　局　運輸部３名
内　容　バリアフリー法と基本構想について資料に沿って説明後、意見交換

●日　時　平成３０年１月３０日（火）１５：００～１６：３０
場　所　那覇市役所
相手方　那覇市役所都市計画課職員　他１７名
当　局　運輸部１名
内　容　バリアフリー法と基本構想について意見交換

（３）「第９回沖縄地方バリアフリー推進連絡会議」の開催

地域の一体的・総合的なバリアフリー化を進めるためには、関係者相互の協力と連携を強めることが重要となっています。本会議は地域の学識経験者、障がい者団体、ＮＰＯ法人、施設設置管理者、行政等が一堂に会し、情報や意見の交換を行い、お互いの取組に理解を深め、バリアフリーの現状や課題を共有し、よりよい協力関係を築き、連携してバリアフリー化の進展に寄与することを目的として開催しました。

日　時　平成２９年１１月７日（火）１５：００～１７：００
場　所　沖縄総合事務局２階　共用会議室ＤＥ
主　催　沖縄総合事務局運輸部・開発建設部
概　要
　１　開会
　２　議　事
　　⑴国土交通省、沖縄総合事務局のおけるバリアフリー施策について
　　　　沖縄総合事務局運輸部企画室　室長　小柳　美枝子　他
　　⑵意見交換
　　　・那覇空港におけるバリアフリー対応状況について
　　　　NPO法人バリアフリーネットワーク会議　代表　親川　修
　　⑶その他
　３　閉会

【沖縄地方バリアフリー推進連絡会議】

２．バリアフリー化の状況

（１）車両等

①バス

平成２９年度末の沖縄ブロックにおけるバス車両のバリアフリー化の状況は、低床バスは324両（42.4%）で、内訳は、ノンステップバスは252両（33.0%)、ワンステップバス72両（9.4%）となっています。

②モノレール

平成２９年度末の沖縄ブロックにおける軌道車両のバリアフリー化の状況は、36両（18編成）（100.0%）ですべての車両でバリアフリー化されています。

③船舶

平成２９年度末の沖縄ブロックにおける一般旅客定期航路船舶（5ｔ以上）のバリアフリー化の状況は、30隻（55.6%）です。

表　車両等のバリアフリー化の状況

	総　数	適合数	適合率(%)
バ　　ス	766両	324両	42.4
		252両(内ﾉﾝｽﾃｯﾌﾟ)	33.0
		72両(内ﾜﾝｽﾃｯﾌﾟ)	9.4
モノレール	36両(18編成)	36両(18編成)	100.0
船　　舶	54隻	30隻	55.6

※ バスの適合数は低床バス。

【ノンステップバス】

【バリアフリー対応船】
安永観光　ぱいじま２（H29.10.8就航）

（２）旅客施設

①バスターミナル
平成２９年度末の沖縄ブロックにおけるバスターミナルのバリアフリー化の状況は、段差の解消は3施設（60.0%）、視覚障害者誘導用ブロックの設置は2施設（40.0%）、身体障害者用トイレの設置は3施設（60.0%）です。

②モノレール駅
平成２９年度末の沖縄ブロックにおける軌道駅のバリアフリー化の状況は、段差の解消、視覚障害者誘導用ブロックの設置、身体障害者用トイレの設置とも15駅（100.0%）全てで対応済です。

③旅客船ターミナル
平成２９年度末の沖縄ブロックにおける旅客船ターミナルのバリアフリー化の状況は、段差の解消は8施設（21.6%）、視覚障害者誘導用ブロックの設置は3施設（8.1%）、身体障害者用トイレの設置は14施設（37.8%）です。

表　旅客施設のバリアフリー化の状況

	総施設数	段差の解消	視覚障害者誘導ブロック	身体障害者用トイレ
バスターミナル	5	3 (60.0)	2 (40.0)	3 (60.0)
モノレール駅	15	15 (100.0)	15 (100.0)	15 (100.0)
旅客船ターミナル	37	8 (21.6)	3 (8.1)	14 (37.8)

※　下段（　　）は、適合率（%）

内閣府
沖縄総合事務局運輸部